

系統信用事業の信頼性確保に向けた 4つの柱。

利用者から選ばれる金融機関としての価値を高め、
農林水産業の発展に寄与します。



農林中央金庫
代表理事 理事長
上野博史

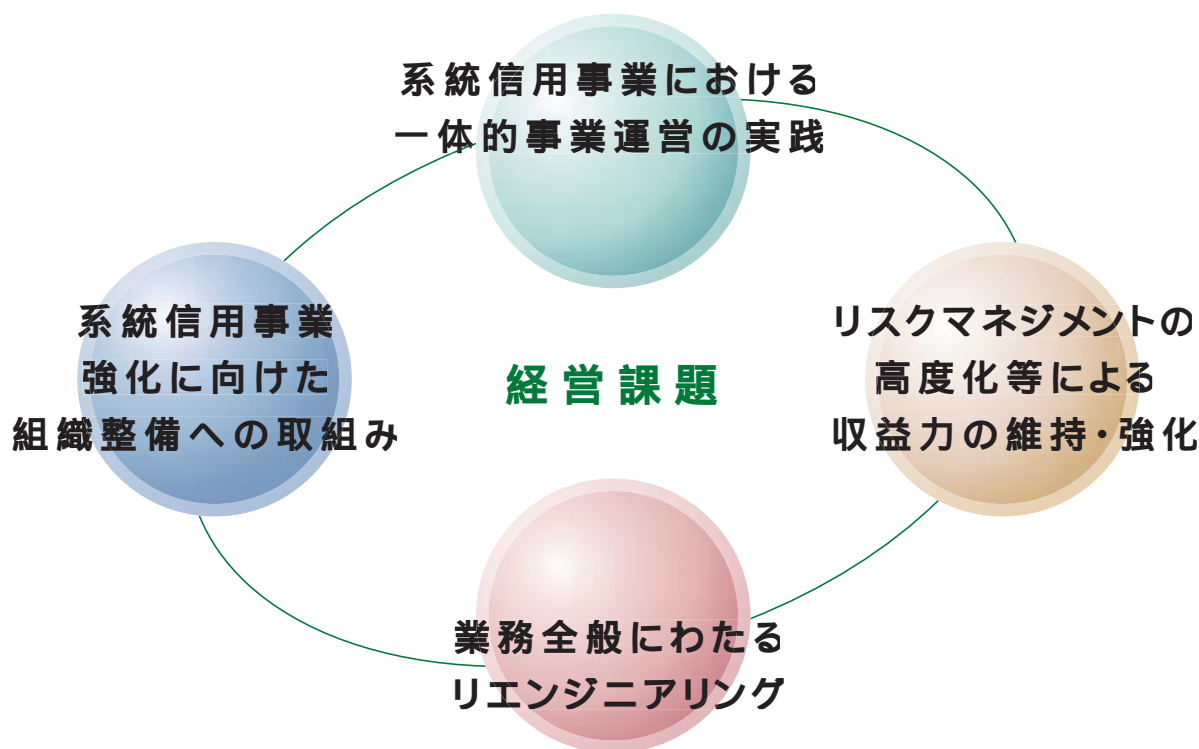
農林中央金庫は経営環境を どのように認識しているか

世界的に政治社会情勢が不透明なかで 経済環境も厳しさを増してきています。わが国経済は、財政や雇用における構造調整圧力が引き続き強く、資産価格の下落が続く状況にあり なかなか景気回復の途が見えにくいものと考えています。

また わが国の農林水産業につきましても 難航するWTO交渉や米政策の抜本的見直しなど 歴史的な転換期に直面しているところであります。

わが国の金融システムの面でも 昨年10月以降のいわゆる金融再生プログラムのなかで 資産査定 の厳格化 より迅速な不良債権処理をはじめとする金融機関の健全化 金融機能の強化が求められており さらに 現在 銀行の自己資本のあり方、新たな公的資金制度について 金融審議会において検討が進められています。

このように 金融機関 農林水産業を取り巻く環境はきわめて厳しく 当金庫の経営にとって大きな影響を及ぼす可能性があることから 必要な対策を立て十全の対応をしていく方針です。



農林中央金庫が系統組織のなかで果たす 基本的な役割は何か

当金庫は 農林水産業の協同組合の全国金融
機関として 系統団体の安定的な資金調達基盤
を背景に 融資業務や有価証券への投資等によっ



て効率的かつ安定的な運用を行ってきています。
また系統団体などに対し全国共通のシステム基
盤の提供や商品開発などさまざまな金融サービ
スを提供しています。

平成13、14年には 農林中央金庫法などの法
律が改正され 当金庫は農協系統信用事業 漁協
系統信用事業にかかる指導事業を担うことにな
りました。当金庫は系統信用事業の信頼性確保の
ための取組みを一層強化していきます。

VISION

系統信用事業の信頼性確保に向けた 4つの柱。

農林中央金庫の経営課題とその対応方向はどのようなものか (どのような金融機関になろうとしているのか)

現在 当金庫の経営方針は中期経営計画(平成13年10月～平成17年3月)で規定されています。

中期経営計画の基本的な考え方を以下にご説明します。

系統信用事業が組合員 利用者から選ばれ支持される金融機関として生き残っていくためには、「安全・安心な」、「便利で」、「親切で・頼れる」存在としてその価値を高めるとともに 組織・事業の一層の効率化と収益性の向上を図ることが必要と考えます。このため系統各段階は 効率的かつ有機的に役割分担する体制・仕組みを構築することで、あたかも「ひとつの金融機関」としての機能を発揮していくことが不可欠です。当金庫は「選択と集中」を実践しつつ 適切なリスクマネジメントによる安定的な「収益還元」に努めるとともに、JA・信農連・当金庫の一体的な事業運営を軸とした「機能還元」を行うことを通じ 当金庫の会員・利用者に対する「利用価値」を一層高めることに努めます。

このような基本的な考え方のもとで 中期経営計画は4つの柱を設定しました。すなわち、系統信用事業における一体的事業運営の実践、系

統信用事業強化に向けた組織整備への取組み、リスクマネジメントの高度化等による収益力の維持・強化、業務全般にわたるリエンジニアリングです。この4つの柱を少し詳しくご説明します。

第一は「系統信用事業における一体的事業運営の実践」です。これは平成14年1月にスタートしたJAバンクシステムの構築・運営を担っていくことを表しています。JA,信農連 当金庫が実質的にひとつの金融機関として機能するグループの名称として「JAバンク」を用い、JAバンク基本方針のもとに競争力の強化と信頼性の向上を図ろうというものです。IT化や利用者ニーズに応える商品の供給などの良質で高度な金融サービスの提供と経営破綻を未然に防止するための一定の基準をつくり 定期的にJAバンク会員の経営状況等をモニタリングし 問題点を早期に改善することによる実効性ある破綻未然防止策の確立を目指します。

また漁協系統においても平成15年1月よりJA系統と同様の破綻未然防止の仕組みを構築しています。JFマリンバンク基本方針を策定し 漁協系統信用事業の再編強化のための仕組みを整備し



ています。当金庫は JAバンク中央本部 JFマリンバンク中央本部としてその運営に積極的な役割を果たしています。

第二は「系統信用事業強化に向けた組織整備への取り組み」です。昨年10月には宮城県信農連と 本年3月に岡山県信農連と統合を実現しました。15年度もこの5月に栃木県信農連と統合したところです。秋には秋田県、長崎県 山形県の各信農連と統合することとなっています。

第三は「リスクマネジメントの高度化等による収益力の維持・強化」です。信用事業の全国金融機関である当金庫の使命のひとつに系統団体への収益還元があります。また一体的な事業運営や組織整備を進めるためにも収益力の強化が必要です。高度なリスクマネジメントのもと市場リスク、信用リスクを収益化するとともに 平成18年より実施される予定の新BIS規制に向け準備を進めています。昨年 当金庫は普通出資の倍額増資を行ったほか 永久劣後ローンの取り入れ等により自己資本を充実させることができました。

最後は 当金庫の「業務全般にわたるリエンジ



ニアリング」です。選択と集中による業務の簡素化・効率化をすすめるとともにグループ会社の活用 コンプライアンス態勢の拡充に向けた継続的な取り組みを進めています。

この中期経営計画を具体的に実行していくため平成15年度業務計画を策定しました。

これは中期経営計画の進捗状況を踏まえ 15年度にスピード感をもって取り組みを強化することを中心に策定しています。

おわりに

当金庫の業務課題は決して容易に達成できるものではないと考えています。しかしこの課題の実現がなければ 系統団体 系統信用事業のさらなる発展はありえないとの認識のもと真摯に課題解決に取り組んでまいり所存です。この取り組みにより当金庫の利用価値が高まるとともに 農林水産業の発展に寄与し 社会への貢献も果たすことができると確信しています。

VISION